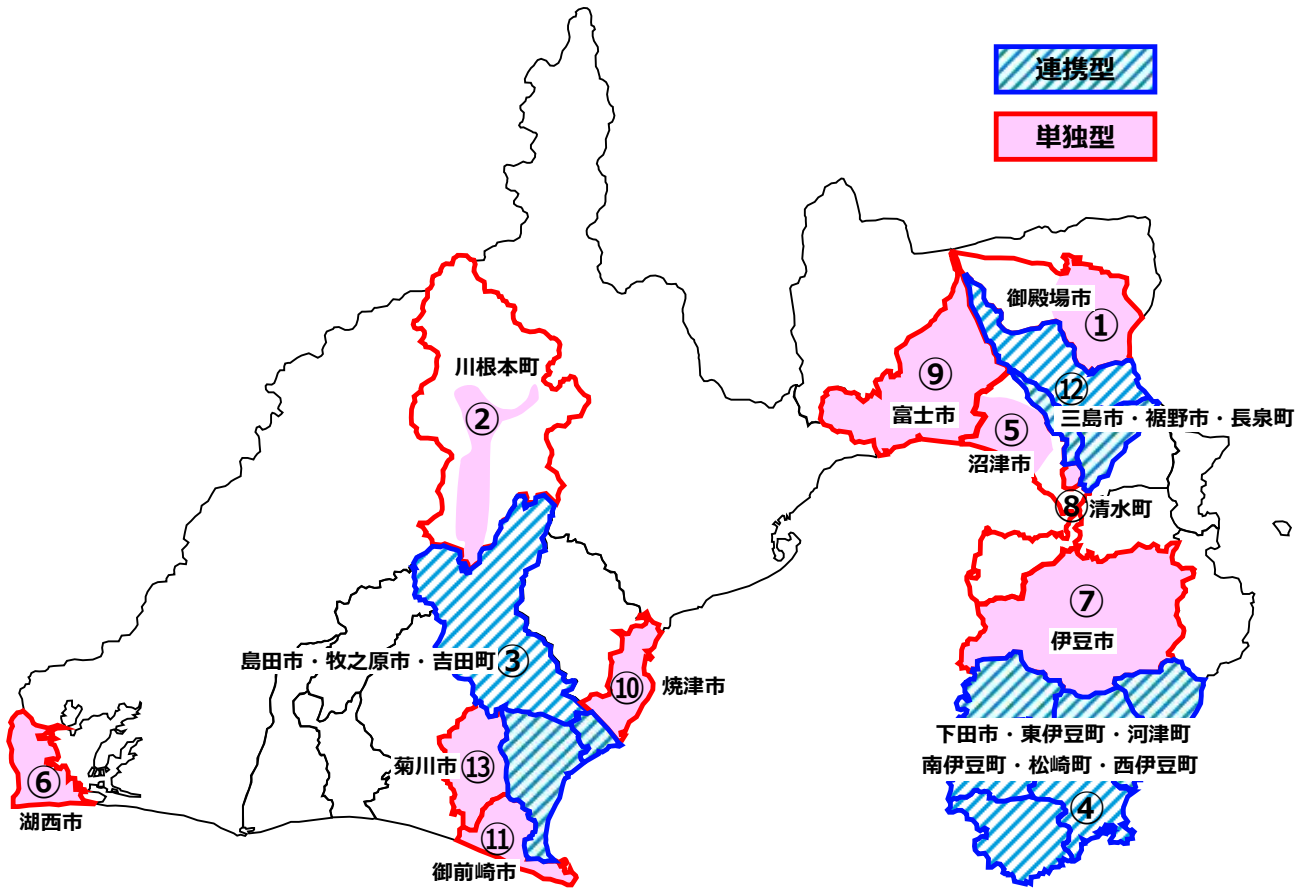


○ フロンティア推進エリア一覧



認定年度	No.	フロンティア推進エリア名
R1	①	御殿場“エコガーデンシティ”産業立地促進エリア
	②	I C T・I o Tによる新産業創出推進エリア
R2	③	富士山静岡空港周辺観光・産業交流推進エリア
	④	世界レベルの地域資源の中で、豊かに働き・暮らし・遊ぶ『伊豆'sライフスタイル』創造エリア
	⑤	先端科学技術を活用した農業イノベーション創出エリア
	⑥	湖西市版MaaS（企業シャトルBaaS）によるデジタルシティ推進エリア
	⑦	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした、交流・関係・定住人口創出推進エリア
	⑧	笑顔があふれ誰もが健康に暮らせる『笑街健幸のまち』推進エリア
R3	⑨	企業の競争力と暮らしの質を高め、新たな価値を創造するテレワーク先進都市エリア
	⑩	「水産資源（食）」・「温泉」・「歴史文化」と「新たな働き方・楽しみ方」の掛け合わせにより、多彩な人々が寄り集う「港まちやいづ」創造エリア
	⑪	脱炭素社会と経済の活性化を実現する、御前崎型の次世代農業・賑わい創出エリア
R4	⑫	首都圏の子育て世帯から選ばれる「転職なき移住」推進エリア
	⑬	「多文化都市」菊川型の関係人口創出・定住人口拡大エリア

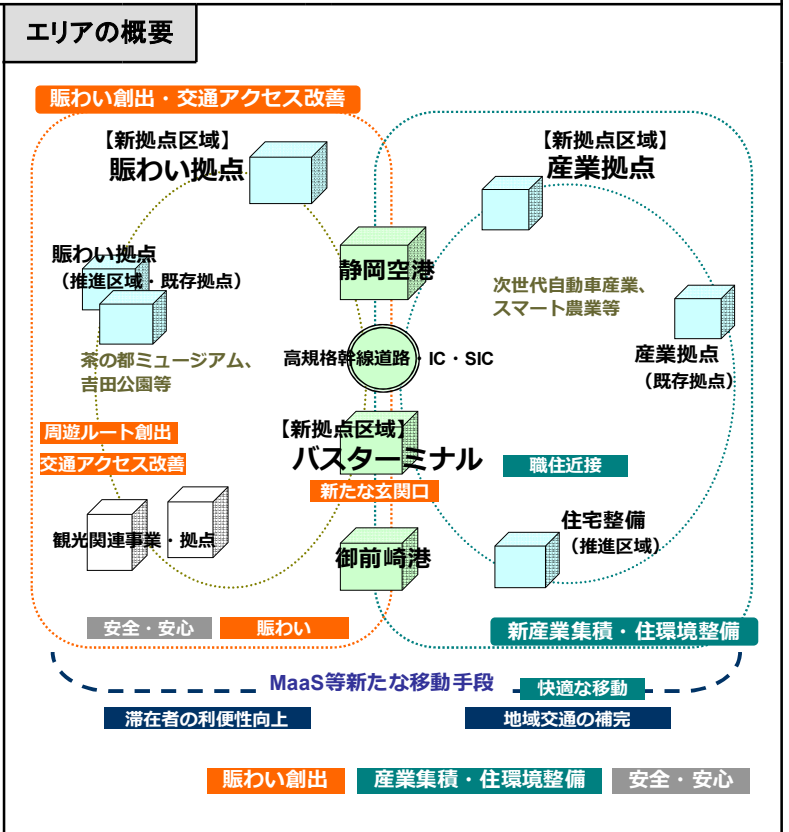
3 【空港周辺】富士山静岡空港周辺観光・産業交流推進エリア (島田市・牧之原市・吉田町)

R2年度認定

目指す姿	富士山静岡空港や高規格幹線道路、新たなモビリティ等の交通ネットワークの活用と、拠点間の相互連携により、新たな人・モノの流れを生み出す観光・産業交流推進エリア
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 空港を中心とした新たな賑わい拠点の創出および既存資源との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ MaaS等の新たなモビリティを活用し、既存の観光・商業施設や、新たな賑わい拠点などを結ぶ交通アクセスを改善するとともに、周遊ルートの創出による更なる観光交流を生み出しながら、エリア全体の消費拡大、地域経済を活性化 ○ 陸・海・空のネットワークを活用した新産業の集積と新たな住環境の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代自動車研究開発等の産業を誘致する拠点を整備し、雇用の受け皿を確保
新拠点区域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工場跡地利活用促進拠点 ・ 萩間地区工業用地開発推進拠点 ・ シーガーデン推進拠点 ・ 旧金谷中学校跡地活用推進拠点 ・ (仮称)東名吉田IC周辺バスターミナル推進拠点
既存拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新東名島田金谷IC周辺都市的土地利用推進区域 ・ 東名相良牧之原IC周辺土地利用推進区域 ・ 物資供給拠点確保事業推進区域 ・ 企業活動維持支援事業推進区域 等
県支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ フロンティア推進エリア形成事業費補助金 ・ 工業用地安定供給促進事業費助成

主な進捗

- ✓ 吉田ICバスターミナルの事業用地について取得交渉を実施中。併せて、ターミナル内への再エネ設備導入及び当該設備による発電電力の利活用検討を進める。
- ✓ エリア内の回遊性向上を図るため、令和5年9月から12月まで電動バイク、電動キックボード、超小型EV自動車を、島田市内観光施設等に配置し、回遊促進効果を検証する実証実験を実施。結果を踏まえ、エリア全域への波及に向けた検討を進める。
- ✓ 民間事業者が整備するスケートボードパークの整備支援をし、独自性のある観光コンテンツの誘致促進を進めていく。



主な取組		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
(仮称)東名吉田IC周辺バスターミナル推進拠点	当初計画	関係機関調整	調査、地元調整	設計、用地取得	工事着手				
	実施・見込み	関係機関調整				調査、地元調整	設計、用地取得		
MaaS等新たな移動手段の導入	当初計画		手法検討		実証実験	実装			
	実施・見込み		手法検討		実証実験				実装

5 【沼津市】先端科学技術を活用した農業イノベーション創出エリア

R2年度認定

<p>目指す姿</p>	<p>先端科学技術を活用した農業の生産性改革と農業を軸とした関連産業のビジネス展開により、「農業の力」で地域の活性化を実現する農業イノベーションエリア</p>	
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 荒廃農地のリノベーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 荒廃農地を活用した農業団地の整備を進め、ICTやビッグデータを活用したスマート農業の導入により、生産から加工、販売までを一貫して行う農業サプライチェーンモデルを構築し、農産物の生産性向上や安定供給を実現 ○ 先端技術の研究拠点と生産現場との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ AOI-PARCとの連携を図り、AOIプロジェクトで開発された革新的な栽培技術等を生産現場に導入し、技術的・経営的効果を実証するモデル事業として展開 ○ 地産地消の推進や賑わいの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺の農業従事者との連携により、地場産品の集出荷機能を有する施設を整備し地域内での消費拡大を図り地産地消を推進 ・ 物販、マルシェ、カフェ機能等の導入により、賑わいの場として活用 	
<p>新拠点区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原・浮島地区農業団地整備推進拠点 	
<p>既存拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ AOI-PARC ・ 東名高速道路愛鷹スマートIC、新東名高速道路駿河湾沼津スマートIC 	
<p>県支援事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ フロンティア推進エリア形成事業費補助金 	
<p>主な進捗</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 原・浮島地区農業団地整備推進拠点で、令和4年5月に植物工場が竣工し、閉鎖型の人口光植物工場としては世界初となる水耕栽培によるホウレンソウの量産が実現。天候に左右されることなく1日あたり約2トンのホウレンソウが安定的に出荷されており、約170名の雇用を創出。 ✓ 原・浮島地区での先端技術の普及や荒廃農地の利用・再生に向け、民間事業者のスマート農業導入、実証実験を支援し、先端技術を活用した農業の力による地域活性化を促進。 	<p>エリアの概要</p>

主な取組		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
植物工場の整備	当初計画		整備 ■■■■	操業 ■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■
	実施・見込み		整備 ■■■■	操業 ■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■
AOI-PARCと生産現場の連携	当初計画				内容検討 ■■■■	実証試験 ■■■■	地域への技術展開 ■■■■	■■■■	■■■■
	実施・見込み				内容検討 ■■■■	実証試験 ■■■■	地域への技術展開 ■■■■	■■■■	■■■■

6 【湖西市】湖西市版MaaS（企業シャトルBaaS）によるデジタルシティ推進エリア

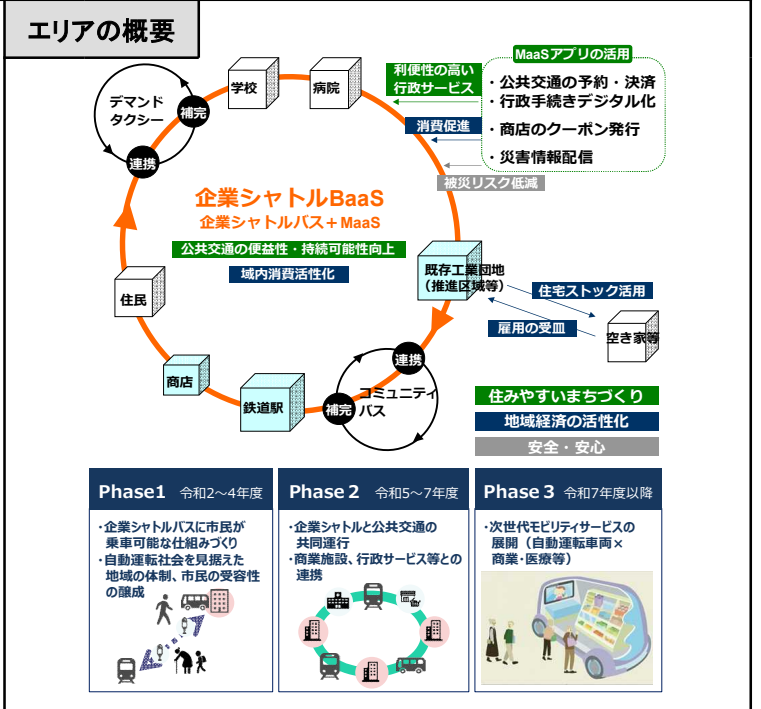
R2年度認定

目指す姿	湖西市版MaaSである企業シャトルBaaSや、各種手続きのデジタル化の推進による、誰もが住みやすく、かつ、市内で経済が循環する先進モデルエリア
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○企業シャトルバスを活用した地域公共交通の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・複数企業のシャトルバスを共同運行し、かつ、一般乗車も可能とする「企業シャトルBaaS」の運行により、公共交通の利便性・持続可能性を向上 ○MaaSアプリを活用した地域内消費の誘導、安全で利便性の高い行政サービス提供 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の飲食・小売事業者のクーポンをアプリ上で発行し、地域内消費を誘導 ・企業シャトルバスを活用した宅配支援により、市内商店での消費促進、企業従業員の買い物支援 ・行政手続きのデジタル化やアプリとの連携の推進により、非対面・非接触で、利便性の高い行政サービスを実現 ○職住近接の推進による地域内消費活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・MaaSアプリの活用や企業との連携による情報提供、住宅ストックの活用などにより移住・定住を促進 ・物販、マルシェ、カフェ機能等の導入により、賑わいの場として活用

既存拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖西岸地区産業集積推進区域 ・ JR鷺津・新所原駅及び駅周辺商店 ・新居地区「安全で安心な暮らし空間創生」推進区域
------	---

県支援事業	・ フロンティア推進エリア形成事業費補助金
-------	-----------------------

主な進捗
 ✓ 令和3・4年度に引き続き、地域企業と連携した湖西市企業シャトルBaaSの運行実証実験を令和5年9月から令和6年1月の5ヶ月間実施。
 ✓ 隣接する豊橋市と連携して、県境を越えた取組に発展するほか、オンライン決済導入や乗車予約の弾力化など、利便性向上を図りながら運行実証を実施。
 ✓ 令和7年度は、関係者との協議・調整を行い、令和8年1月より通年運行を開始。今後も改善を行い、利用者の増加および地域住民の移動手段としての定着を目指す。



主な取組		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
湖西市企業シャトルBaaS	当初計画	実証実験、調査・分析				本格運行			
	実施・見込み	実証実験、調査・分析				本格運行			
BaaSと連携した地域内消費誘導	当初計画		実証実験、調査・分析			本格導入			
	実施・見込み		実証実験、調査・分析			本格導入			

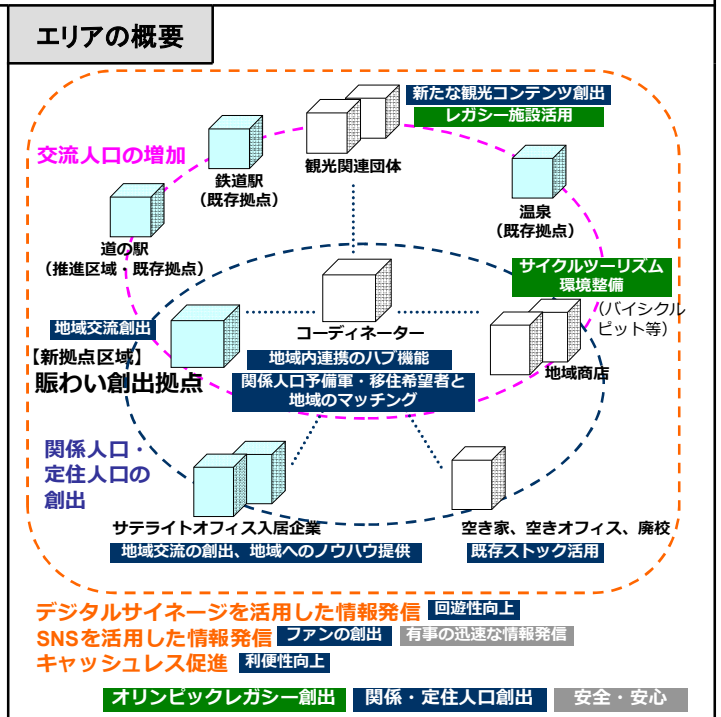
7 【伊豆市】東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした、交流・関係・定住人口創出推進エリア

R2年度認定

目指す姿	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、来訪者の皆様に新たな伊豆市との関わり方を提案し、新たな賑わいを生み出す交流・関係・定住人口創出エリア
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○東京2020オリンピック・パラリンピックをターニングポイントとした交流・関係・定住人口の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリング等の新たな地域資源の活用や地域住民との交流など、滞在・体験・交流の要素を取り入れた観光コンテンツを創出し、拠点間相互の新たな人の流れや継続的な伊豆市との関わりを創出 ・レガシー施設を活用した新たな自転車・サイクリングファンの創出や、サイクリングルート上の店舗と連携した自転車での快適な旅を確保するための環境整備により、「サイクリングの聖地“伊豆市”」を確立 ・関係人口予備軍や移住希望者と地域のマッチング、連携のコーディネーターなど、伊豆市との新たな繋がりを創出する体制を構築
新拠点区域	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆縦貫自動車道中間IC(仮称)周辺にぎわい創出拠点
既存拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・「天城北道路」と「道の駅」を活かした地域振興拠点づくり推進区域 ・天城北道路大平IC周辺“森と農”活力創造推進区域 ・修善寺・湯ヶ島温泉地区、修善寺駅、道の駅「天城越え」 ・伊豆市サテライトオフィス「狩野ベース」、旧土肥小学校
県支援事業	—

主な進捗

- ✓ 伊豆縦貫自動車道中間IC(仮称)周辺にぎわい創出新拠点の整備に向けて、都市計画決定手続きが完了し、地域住民とのワークショップ等を実施しながら、住民と来訪者の交流拠点を検討中。
- ✓ サイクリングや地域資源の魅力を掛け合わせた新たな観光メニューの創出に向けて、市内宿泊者を対象とした20の観光コンテンツの造成とモニターツアーを実施し、観光客へのメニュー化を実現。
- ✓ 修善寺駅周辺に整備したサイクルステーションと宿泊施設が連携し、宿泊施設への自転車配送を行うことで、ニーズに合わせたサイクリング機会の提供を実現。



主な取組		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
伊豆縦貫自動車道中間IC(仮称)周辺にぎわい創出拠点の整備	当初計画		調査設計	■ ■ ■ ■ ■	整備	■ ■ ■ ■ ■			
	実施・見込み		調査設計						整備
地域資源を活用した観光コンテンツの創出	当初計画		試行	本格導入	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	実施・見込み		試行		本格導入				

8 【清水町】笑顔があふれ誰もが健康に暮らせる『笑街健幸のまち』 推進エリア

R2年度認定

目指す姿 日々の暮らしを通じてあらゆる世代・ライフステージに応じた心身の健康づくりを実現する、「清水町型スマートライフ」推進エリア

- 取組内容**
- 「健幸スポーツの駅」設置・「健幸拠点」の創設
 - ・ 公共施設や民間スポーツ施設に、町民の健康状態に応じた運動プログラムを提案する「健幸コンシェルジュ」を育成・配置し、「健幸スポーツの駅」として活用
 - ・ 図書館と保健センターの複合施設「まほろば館」については、両機能の連携等により、町の中心的な「健幸拠点」として位置づけ
 - 住民主体の健康づくり体制の構築・地区公民館の有効活用
 - ・ 地域の主体的な健康づくりの担い手となる「健幸アンバサダー」を育成。健康無関心層に健康情報を提供するほか、各地区の公民館に派遣し、健幸スポーツの駅の紹介や情報を提供
 - まち歩きアプリの導入
 - ・ 健康づくり事業と地域ポイント制度「ゆうすいポイント」との連携により、健康行動を地域経済へ還元

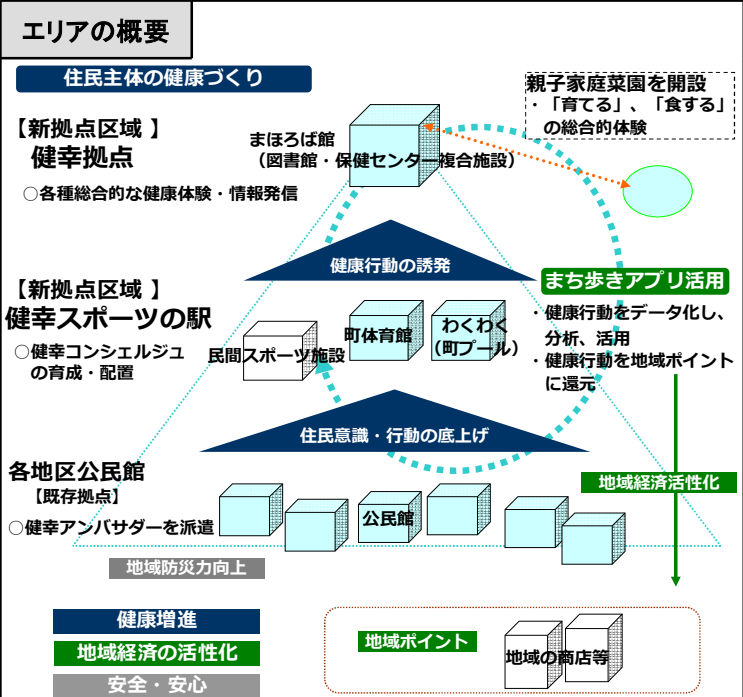
新拠点区域 健幸スポーツの駅・健幸拠点

既存拠点 地区公民館、民間スポーツ施設等

県支援事業 フロンティア推進エリア形成事業費補助金

主な進捗

- ✓ 民間スポーツジム等と連携し、令和4年度から6か所の健幸スポーツの駅を設置し、養成した健幸コンシェルジュが運動プログラムの教室や相談を実施。
- ✓ 令和4年12月からまち歩きアプリを導入し、健康活動に応じて付与する「けんこうポイント」を地域ポイント制度「ゆうすいポイント」と連携させ、地域経済活性化を推進。令和8年3月末時点のアプリ登録者数は4,215人となり、けんこうポイントからゆうすいポイントへの約1850万円分の交換が行われ、健康行動が地域経済に還元されている。



主な取組		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
健幸スポーツの駅の設定による健康づくり推進	当初計画		健幸コンシェルジュ養成	健幸コンシェルジュ配置(健幸スポーツの駅設置)					
	実施・見込み		健幸コンシェルジュ養成	健幸コンシェルジュ配置(健幸スポーツの駅設置)					
まち歩きアプリの導入・「ゆうすいポイント」との連携	当初計画			アプリ導入・運用					
	実施・見込み			アプリ導入・運用					

10 【焼津市】「水産資源（食）」・「温泉」・「歴史文化」と「新たな働き方・楽しみ

R3年度認定

方」の掛け合わせにより、多彩な人々が寄り集う「港まちやいづ」創造エリア

<p>目指す姿</p>	<p>全国トップの水揚げを誇り、我が国を代表する漁港である焼津港を中心として栄えてきた「港まち」ならではの、水産文化都市が保有する「水産資源（食）」や「温泉」、「歴史文化」の地域資源とコロナ禍を踏まえた「新たな働き方・楽しみ方」等を掛け合わせるにより誘客を図り、交流・関係・定住人口を創出するエリア</p>	
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域資源の有効活用・磨き上げ <ul style="list-style-type: none"> ・ 古民家・漁具倉庫等をワーケーションやアクティビティ等の拠点として整備するとともに、食文化を楽しむガストロノミーツーリズムの概念も取り入れながら、「水産資源（食）」・「温泉」・「歴史文化」と「ワーク」の掛け合わせによる新たな働き手・ツーリストの受け皿づくりを推進 ○ やいづ版ワーケーション（ワーク＋コラボレーション・イノベーション）の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部人材と地域・地元企業・地元教育機関・関係団体等との交流促進による、新規ビジネスの創出や、地域の水産ブランド力の強化 ○ 空き店舗や空き家等を活用した新たな拠点の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ サテライトオフィスやワークスペースを確保し、クリエイティブ人材と地域や地元企業が連携した地域課題解決ビジネスを創出 	
<p>新拠点区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「やいづ版ワーケーション」推進拠点 	
<p>既存拠点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜通り服部家（「庭の宿 帆や～hoya～ 焼津」） ・ JR焼津駅 ・ ターンクルこども館 ・ 焼津駅前商店街 	
<p>県支援事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ フロンティア推進エリア形成事業費補助金 	
<p>主な進捗</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 漁具倉庫をリノベーションした「焼津PORTERS」は、令和5年7月にコワーキングスペースや飲食施設が稼働開始。段階的に営業を開始し、令和8年度にホテル施設をフルオープンとする予定。 ✓ 外部人材と地域の接点創出に向け、焼津PORTERSを活用したIT企業と地元学生の交流機会の創出、釣り好きのテレワーカーをターゲットにしたワーケーションプログラム、グリーンスローモビリティーを活用しながらビジネス交流を促進する焼津版MaaSの実証実験などを展開。 	<p>エリアの概要</p> <p>やいづ版ワーケーションの推進 (外部人材と地元企業・教育機関のコラボレーション) 地域資源の活用・磨き上げ (水産資源(食)、温泉、歴史文化)</p> <p>ワーケーション推進 外部人材</p> <p>【焼津漁港】 「ワーケーション」推進拠点 (漁具倉庫リノベーション)</p> <p>JR焼津駅・駅前商店街</p> <p>内港胸壁 ・安全・安心</p> <p>地域課題解決</p> <p>賑わい拠点 (ターンクルこども館)</p> <p>滞在拠点 (古民家活用)</p> <p>外部人材 × 地元企業 教育機関</p> <p>地域資源 (水産資源(食)・温泉・歴史文化)</p> <p>● 新拠点 ● 既存拠点</p>

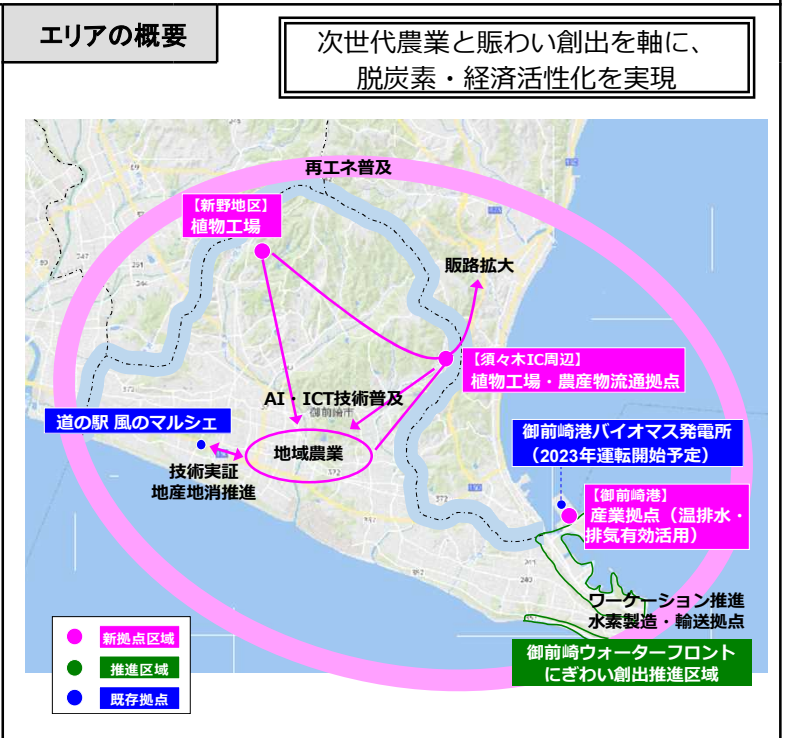
主な取組		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
「やいづ版ワーケーション」推進拠点(焼津PORTERS)の整備・運営	当初計画		一部オープン	グランドオープン				
	実施・見込み		一部オープン	グランドオープン				
外部人材と、地元企業や教育機関、関係団体との交流機会創出	当初計画		交流促進に向けた実証実験等		民間自走			
	実施・見込み		交流促進に向けた実証実験等		民間自走			

11 【御前崎市】脱炭素社会と経済の活性化を実現する、御前崎型の次世代農業・賑わい創出エリア

R3年度認定

目指す姿	再生可能エネルギーの導入をはじめとしたカーボンニュートラルに向けた取組とともに、先端技術を活用した次世代農業の普及と、地域資源である海・港・マリンスポーツ等を活用した賑わい創出により、脱炭素と経済好循環を実現するエリア
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ AI・ICT技術を活用したスマート農業の普及 <ul style="list-style-type: none"> ・ スマート農業の地域モデルとなり、かつ、集出荷機能も備えた植物工場を誘致するとともに、地域農業へのAI・ICT技術の導入や、新たな流通網の構築による地場産品の販路拡大や地産地消を推進 ○ 御前崎港周辺の新たな賑わい創出 <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存ストックを活用したワーケーション拠点整備や、民間活力を活用したウォーターフロントの魅力向上により、新たな人の流れを呼び込む地域に転換 ○ カーボンニュートラルの取組加速化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電システムやクリーンエネルギー自動車の導入促進によるエネルギーの地産地消の拡大や、バイオマス発電所から排出される温排水や排気を有効利用した、新たなビジネスモデルの構築
新拠点区域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 須々木IC周辺地区産業立地推進拠点 ・ 新野地区産業立地推進拠点 ・ 御前崎港バイオマス発電所周辺産業立地推進拠点
既存拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御前崎ウォーターフロントにぎわい創出推進区域 ・ 御前崎港バイオマス発電所(2023年運転開始)等
県支援事業	—

主な進捗	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 須々木IC周辺地区産業立地推進拠点は、進出を検討している企業と開発に向けた調整を実施中。 ✓ 新野地区産業立地推進拠点、御前崎港バイオマス発電所周辺産業立地推進拠点は、地元調整や事業者へのヒアリング・誘致活動を実施中。 ✓ 令和5年4月に御前崎港に初めて外国クルーズ船が寄港し、寄港イベントの開催により賑わいを創出するとともに、背後観光地への2次交通の改善に向けた検討として、レンタサイクル活用の実証実験を実施。
------	--



主な取組		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
須々木IC周辺地区産業立地推進拠点の整備	当初計画	企業誘致 ■■■■■	■■■■■	■	地盤改良・施設整備 ■■■■■	■■■■■		
	実施・見込み	企業誘致 ■■■■■				地盤改良・施設整備 ■■■■■	■■■■■	
事業者向け再生可能エネルギー導入支援	当初計画		事業者向け導入支援 ■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
	実施・見込み		事業者向け導入支援 ■■■■■	■■■■■	■■■■■			

12 【富士山南東】首都圏の子育て世帯から選ばれる「転職なき移住」 推進エリア（三島市・裾野市・長泉町）

R4年度認定

<p>目指す姿</p>	<p>子育てに適した豊かな自然環境や首都圏への良好な交通アクセスを活かしながら、三島駅をハブとした車を持たずとも暮らしやすい移動環境を提供することで、「子育て世帯」「首都圏通勤者」「テレワーカー」の移住希望者から選ばれるエリア</p>	
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て世帯のニーズに合った魅力ある拠点の整備・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ テレワーク拠点の整備を促進し、「転職なき移住」実現の場を創出するほか、交流施設や公園の活用・PRにより、移住者が孤立せず安心して子育てできる環境を創出 ・ 空き家活用などに重点的に取り組む移住モデル地区を形成し、移住者を呼び込む受皿を整備するとともに、住宅地・工業団地の整備を着実に進め、ゆとりある住まいや、配偶者・家族の就業先を提供 ○ 新幹線三島駅をハブとしたエリア内移動の利便性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自動運転技術の導入、シェアサイクル・電動キックボード・超小型モビリティ等のパーソナルモビリティ拠点拡充等により、誰もが移動しやすい交通ネットワークを整備 ・ あらゆる移動手段と、地域イベントや立寄り先などのサービスをシームレスにつなげるマルチモーダルデータ連携基盤の構築により、移動・生活の利便性を向上 ○ 住みやすい街、産み育てやすい街としてのブランド確立 <ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏子育て世帯向けに、ブランディング・プロモーションを2市1町で一体的に実施し、若者の移住を促進 	
<p>新拠点区域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三ツ谷地区新たな産業拠点整備区域 ・ 長泉沼津 IC 周辺物流関連産業等集積区域 ・ 裾野市北部地域職住近接の防災スマートシティ創出推進区域 等 	
<p>県支援事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ フロンティア推進エリア形成事業費補助金 	
<p>主な進捗</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 移動利便性の向上に向けて、令和5年12月に、三島駅北口・JR御殿場線下土狩駅間でレベル2の自動運転バスの走行実証を実施。 ✓ 長泉町では、令和4年度から高齢者向けに実施してきたマイナンバーカードを活用したタクシー利用助成について、令和5年度から妊産婦を追加し、子育て世帯の生活利便性を向上。 ✓ 広域連携による効果的な移住促進に向けて、移住PR冊子の制作や、都内における移住相談会等を共同実施。 	<p>エリアの概要</p> <p>広域連携による「子育て世帯」「首都圏通勤者」「テレワーカー」の移住促進</p>

主な取組		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
移動利便性向上に向けた交通ネットワーク整備	当初計画	実証 ■■■	■■■■■	■■■■■	実装 ■■■■■	■■■■■	■■■■■
	実施・見込み		実証 ■■■■■	実証 ■■■■■	実証 ■■■■■	実装 ■■■■■	
若者、子育て世帯をターゲットとしたUターン・移住促進事業	当初計画		事業実施 ■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■
	実施・見込み			事業実施 ■■■■■	■■■■■	■■■■■	■■■■■

